



もうひととはな 咲かせるための“女の生き方塾” 介護のプロに学ぼう ～幸せを見つける介護～



2010年10月7日～11月4日まで実施した、「もうひととはな 咲かせるための“女の生き方塾”」の第1回目は、NPO法人ホームヘルパー福祉センター理事長 平出田鶴子さんにお話していただきました。

◆常識論からの解放◆

私はソーシャルワーカーとして50年余り、社会福祉が本職の実践家です。76歳の今も、毎週土曜、大学に通って、時代によって変わる介護・福祉の勉強をし続けています。

福祉という字の意味は、両方とも“しあわせ”という意味です。つまり、一つは自分の幸せ、もう一つは他人(ひと)様の幸せです。私が幸せで、この人が不幸せで良いのだろうかと思わなければいけないのです。幸せということは、人と共にという考え方が福祉の考え方です。

時代は次々と動き、法律もどんどん新しくなっています。その時代、その時の自分で、幸せを求めることが大事になります。過去に勉強したことにとらわれて、年をとればとるほど常識論にとらわれて、それが塵や芥のようについてくる、こうあるべきだという考えに固執して相手を決めつけるのは、人として嫌なことだし、不幸なことだと思います。

私が大学に行っていた頃は、花魁がいて、花街があった時代でした。卒業論文のテーマに「売春禁止法」を選び、同じ女性なのに身を売って生きてゆくことがどんなに辛いことかということを書きました。

私は結婚が遅く、子どもも40歳近くで産みました。独身が長く、結婚もしにくい年齢だったので、経験を活かして結婚相談所を立ち上げました。そして相談所に来てくれた男性と結婚しました。結婚はもういいやと思っていたのに、結婚して40年になりました。76歳と年はとっておりますが、毎日楽しく仕事をしています。

◆人生は一方通行◆

人は生まれた時からやがて死ぬことは決まっています。生まれた時を始まりとして⇒小学校⇒中学校⇒高校⇒大学⇒第一線で働く(社会人となり、妻になったり、母になったり、子どもを育てたり、家庭にいる人もあれば、仕事を持っている人もいる期間)⇒(仕事をしている人は)定年退職、または週に3日だけ働くなど⇒(そうして、いよいよ足腰が弱り、在宅となる)高齢者の期間⇒あの世(死)という流れです。

私は、年齢的には高齢者に入ります。この年齢ですと、介護を受けている方もたくさんいらっしゃいますが、第一線で仕事をしているので、隣にある「死」を考えることはありませんし、死ぬ気がしません。私は死を恐れず、生き生きと毎日を生きていくことが高齢になっても大事なことだと思っています。

日本は過去、大変貧乏な時期がありました。“おしん”のように食べられないどころか、子どもが売られてゆく。姥捨て、爺捨てなど、子が親を捨てることもあり、親が自ら役に立たなくなったと自覚して、進んで捨てられたこともありました。子どもは大事だけれど、育てられない貧困の現実がありました。こけし人形を愛する風潮も“子を消す”あとの祈りという意味と一説には言われています。

現在は、子どもの数は少なく、1人か2人、多くても3人のお子さんをこんなに大事に育てたのだから、「私が寝込んだら…」「介護をうけるようになったら…」、きっと子どもが看てくれると思ったら違うのが、現実です。

代々、親は子が大事、その子はそのまた子が大事、またその子は孫が大事と、川の流れのように下へ流れてゆくものです。これからは、現実がこの流れになっていることを、よく認識し、頭を切り替えて、子どもを早く自立させることを実行していただきたいのです。子どもは社会の中へ出し、早く自立させ、経験を積ませることが大事です。経験が少ないと職場に行ったときに差がつきます。



◆話を聴く、心を見せる関係性◆

世界的にみて、こんなに長生きで食べ物も豊富にあるのに、日本人の幸せ度は26%です。給料が日本の100分の1のタンザニアやナイジェリアなどの幸せ度の方が高くなっています。

高齢者の病気で医者で治せるものが50%、難病が次々出てきて、薬の開発が追いつきません。命は長くなっているのに、病気は増え続けて、障がい者も増えています。

看護も介護も、どちらも愛情が入っていないと成立しない仕事です。こういう考え方の基礎は経験だけではわからないものです。人は会った瞬間に愛情を感じないとダメなのです。私は若い人に、しっかりと相手の目を見て、最初の第一印象で関係性を結ぼうねと言います。

私は今、高齢者の仕事と障がい者の仕事の両方をしています。高齢者への対応の仕方と障がい者への対応の仕方は全然違います。一人ひとり心理状態も違えば、考え方も違います。ですから、その方に合わなければ、本当の介護になりません。介護をする方も幸せでないし、受ける方も幸せではありません。この関係性がとても大事で、あちらも良くて、こちらも良くなければ幸せではありません。

福祉の仕事は、相手が尊重されているという思いを大切にすることです。相手に合わせる事、人間関係が大事です。皆さん悩みを持っているのですから、話し上手より聞き上手です。聞き上手とは、顔つき、態度から、お話を聞かせていただきますという姿勢のことです。聞いて差し上げて、関係性を作ってゆき、人間関係を深めてゆくことが大事です。

相手がブスッとしていたら、自分もそうするのではなく、何か辛いことがあるのではないかと、何か苦しいことがあるので

はないかと、ちょっと引き気味になって、「何かおありですか」と、先方から飛び込んでくださるのを受け入れられる姿勢を心掛けるようにと実践しています。



◆頭の中を砂にする◆

私の2番目の子どもは障がい者で、学校でいじめにあっていました。知脳指数が35ぐらいですが、いじめられている中で、自分を守るすべを考えて、授業開始のベルが鳴るまで職員室の横に座っていました。

私は、どんなに知能が低い人でも、自分を守る知恵を持っている、弱いなら弱いなりに自分を守ってゆく知恵があると思ひながら、障がい者のケアに取り組んでいます。

“親が子どもをかわいい”というのも一律の常識ではありません。子どもをかわいいという親もいれば、かわいくないという親もいます。家庭の形もさまざま、母子家庭、父子家庭も増えています。

男親の家庭は、母子家庭と違い、経済的に恵まれている場合が多く、お金があります。ものは豊富ですが、お酒の缶が散らばっていることもあり、母親の愛情が不足しています。それで、ヘルパーさんには、うまく掃除をするより、時間いっぱい子どもを抱きしめて、柔軟性を持ってと言っています。

それぞれ一軒ずつ全部違う生活があり、違う価値観の人々が日本で生活しています。それこそ肌の色、眼の色、宗教、千差万別です。どんな国の人も手をつないでいく時代です。“頭の中を砂にする”とは頭の中を柔軟にすることで、「こうあるべき」という思い込みを取り払い、今日と明日は違う、明後日はまた違うという考え方で、いつでも頭を柔軟にして、常に新しい時代を吸収しなければなりません。



◆プロは選ぶことができる◆

介護は家族だけですと大変です。心身共に疲れるものです。往々にして介護していた50歳代くらいの若い人が亡くなり、介護されていたおじいさん、おばあさんが残ることがあります。



中面:もうひととはな 咲かせるための女の生き方塾
「介護のプロに学ぼう～幸せを見つける介護～」

発行:大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

親を介護するようになると、最初は悲しみなのですが、問題が起きたりすると、だんだん憎しみに変わってゆきます。実の親子ほど、介護者の暴力が多くなります。介護入浴の時に、煙草の跡などを発見することがよくあります。統計では40%の人がそうしたいと思うことがあると答えています。ですから、プロと一緒に、プロを上手に使うことが大事です。

介護はプロを利用することが最善です。ヘルパーも質のよいプロと質の悪いプロと格差が出てきていますので、悪い場合は、さっさとお替えになることです。介護保険は、皆さんが掛け金を払っているのですから、正々堂々とお替えになることをお勧めします。介護が必要になったら、自分に合う事業所を選んでいただき、プロを上手に使うことが大事なことの一つです。

プロは専門職ですから、気を使わず頭を使っています。近年良い福祉用具、器具も増えていきますし、プロは使命感

があるので疲れにくいのです。

ご家族は血がつながっていて、愛情がありますし、感情が入るため、辛いことも多々あります。プロと一緒に将来に向けて介護をやっていただければと思います。



◆世の中のニーズから法律を作る勇気を◆

介護保険の後もどんどん違う法律ができています。「障がい者自立支援法」も「障がい者総合福祉法」という新しいものにも変わろうとしています。

新しい法律というのは、何人かがこういう法律が欲しいと提案してゆくと、行政が読んだり研究したりして国にあげてゆきます。

法律も、本当に必要なものをという体制に変わってきています。どんどん声を上げて法律を作っていく、変えていくようにしましょう。

最後が幸せなら幸せなのですから、健康な老後をめざしてゆきましょう。(まとめ 田中きょうこ)



●「女性のための課題解決能力向上セミナー ～論理的思考を身につけ、発言する力をアップさせる～」(全9回)

日時	タイトル
5月16日(月)	発言力① ～まずは発言する力、伝わる会話力を身につける～
5月23日(月)	発言力② ～自分の考えをグループワークでプレゼンする～
5月30日(月)	知識はチカラ① ～公平観・平等観を身につける～
6月 6日(月)	知識はチカラ② ～データを読み解く力をつける～
6月13日(月)	知識はチカラ③ ～学んだ知識をいかして発言力に磨きをかける～
6月20日(月)	論理的思考で総合力を鍛える!
6月27日(月)	実践! ロジカルに議論する
7月 2日(土)	【公開】フォーラム講演会
7月11日(月)	【まとめ】身につけた力のいかし方

開催時間:各回とも10:00～12:00 ただし、7月2日(土)のみ14:00～16:00

●展示

「折り紙で彩る源氏物語の世界

～千年の時空を超えてよみがえる雅な平安絵巻～

日本の伝統文化の折り紙を使って、源氏物語の世界を表現! その時代の女性たちの人物像・生き方が見事によみがえります。

2011年4月9日(土)～年5月19日(木)9:00～21:00
エセナおおた2階談話コーナー



募集:女性25名
(応募者多数の場合は抽選)
*保育付:一人1回600円
1歳以上の未就学児15名
資料代:1,000円
E-Mail(携帯可)・FAXに
①「課題解決セミナー」、
②〒住所 ③名前(ふりがな)、④年齢、⑤電話番号、
⑥保育希望の場合は、子どもの名前、月齢、FAX またはPCアドレスを明記
申込締切:2011年4月25日(月)必着

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-16-4

電話 03-3766-6587 03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

e-mail escena@escenaota.jp

HP URL <http://www.escenaota.jp/>

メルマガ escenaotamail@yahoo.co.jp

指定管理者 NPO 法人 男女共同参画おおた



安心して相談できる 24時間対応のシステムを



内閣府男女共同参画局が、2011年の2月8日から3月27日まで、性暴力や配偶者暴力(DV)被害者のための24時間電話相談(0120-941-326)を行っています。相談を受けるのは、DV 被害者支援をおこなってきた民間団体の相談員です。必要に応じて医療や警察、弁護士などを紹介しています。

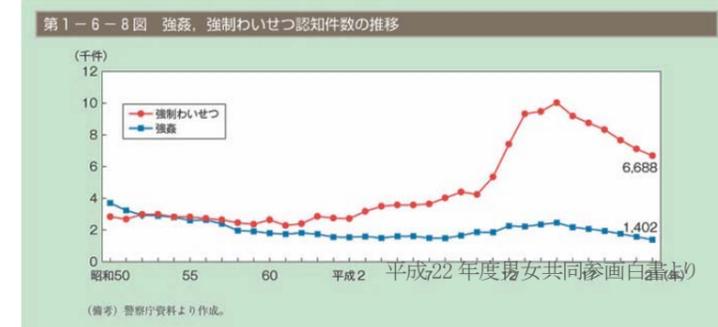
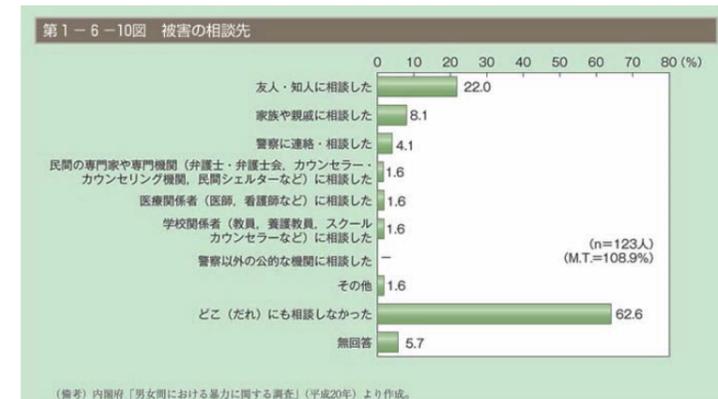
大阪府松原市の病院に開設しました。性被害を受けた女性を救済するための「性暴力救援センターSACHICO」です。公的には、警察主導のワンストップセンターが愛知県一宮市の病院に、2010年5月に開設されました。警察庁が、被害者支援推進計画のモデル事業として、単年度予算で設置したものです。

性暴力の被害にあった人は、だれにも相談できずに悩む人が少なくありません。また、相談できたとしても、相手からの心ない言葉に傷つけられることも多く、何かあったときに安心して相談できる場所が必要です。

お隣の韓国では2005年から性暴力被害にあった人のためのワンストップセンターが開設されています。被害にあった人に必要なのは、寄り添ってくれる人の存在であり、心のサポートをしてもらえること、医療支援、警察による捜査や法律家による法的支援などです。これらの支援を、被害者が動き

回るのではなく、1か所で、総合的な支援を得られるシステムがワンストップセンターです。韓国のワンストップセンターは警察病院から始まり、現在は16カ所の警察病院や公立病院、大学病院に設置されています。24時間体制で、心理相談員、看護師、警察官が常駐し、医師の治療を受けることもできます。

日本でのワンストップセンターは、2009年4月1日に民間が



性暴力の被害にあった女性の被害申告率は1割程度と言われています。被害女性の多くは泣き寝入りし、精神的なショックを和らげることもできない現実があります。

被害にあった人が、安心して相談することができ、精神と身体の回復を図ることができるワンストップセンターの設置が望まれています。

内閣府の電話相談終了後の相談先

★DV 相談ナビ(内閣府)
0570-0-55210

<http://www.gender.go.jp/dv/sodan.navi.html>

★女性の人権ホットライン(法務局)

0570-070-810
平日 8:30～17:15

★東京・強姦救援センター(民間)

03-3207-3692(祝日除く)
水曜日 18:00～21:00
土曜日 15:00～18:00

★被害者支援都民センター(公益法人)

03-5287-3336
月・木・金 9:30～17:30
火・水 9:30～19:00

